



コピーフリーの移行プロジェクトをロールバックしています

ONTAP 7-Mode Transition

NetApp
October 09, 2025

目次

コピーフリーの移行プロジェクトをロールバックしています	1
手動による移行のロールバック	2

コピーフリーの移行プロジェクトをロールバックしています

移行したアグリゲートをコミットする前であれば、コピーフリーの移行のどのフェーズでも、移行をロールバックして 7-Mode にリバートできます。ロールバックは手動で行います。7-Mode Transition Tool を使用して、ロールバックで実行する必要がある手動の手順を生成できます。

- ボリュームまたはアグリゲートの移行処理がクラスタで実行されていないことを確認します。

「job show -jobtype transition」コマンドを使用できます。

- コミットされた 7-Mode アグリゲートがないことを確認します。



7-Mode アグリゲートが 1 つでもコミットされていると、ロールバックを実行できません。

- ターゲットクラスタノードがテイクオーバーモードでないことを確認します。

手順

1. ロールバック (Rollback Precheck) * をクリックして 'プロジェクトがロールバックの対象であることを確認します

事前確認で問題が報告された場合は、それらを手動で修正し、事前確認処理を再実行する必要があります。たとえば、テスト時に新しいボリュームまたは LUN を作成した場合は手動で削除する必要があります。

2. [ロールバックステップの生成 (Generate Rollback Steps)] をクリックして、ロールバックを成功させるために実行する必要がある手動ステップのリストを生成します。
3. * Save as CSV * (CSV として保存) をクリックして、手動ステップをファイルに保存します。

ファイルからロールバックコマンドをコピーして実行できます。

4. どの移行フェーズからロールバックするかに応じて、必要な手動手順を実行します。

- * インポートまたはテストフェーズ *

- i. クラスタでロールバックコマンドを実行し、* 確認 * をクリックします。
- ii. 7-Mode ディスクシェルフを 7-Mode コントローラに接続し、ケーブル接続を手動で検証して、* Confirm * をクリックします。
- iii. 7-Mode コントローラでロールバックコマンドを実行し、* Confirm * をクリックします。
- iv. Operations History タブで、SVM に適用されている構成を表示します。
- v. ツールによって適用されたすべての構成を SVM から手動で削除します。

- * 配線フェーズ *

- i. 7-Mode ディスクシェルフを 7-Mode コントローラに接続し、ケーブル接続を手動で検証して、* Confirm * をクリックします。

7-Mode のケーブル接続が、プロジェクト開始時と同じ状態であることを確認する必要があります。



ケーブル接続を検証するには、Config Advisor を使用する必要があります。

- i. 7-Mode コントローラでロールバックコマンドを実行し、* Confirm * をクリックします。
- ii. ツールによって適用されたすべての構成を SVM から手動で削除します。

SVM に適用されている設定は、Operations History タブで確認できます。

◦ * エクスポートフェーズ *

- i. 7-Mode コントローラでロールバックコマンドを実行し、* Confirm * をクリックします。
- ii. ツールによって適用されたすべての構成を SVM から手動で削除します。

SVM に適用されている設定は、Operations History タブで確認できます。

◦ * SVM のプロビジョニングフェーズ *

ツールによって適用されたすべての構成を SVM から手動で削除します。

SVM に適用されている設定は、Operations History タブで確認できます。

移行をロールバックするための手動手順

5. すべての手動手順が完了したら、7-Mode Transition Tool で * Verify 7-Mode * をクリックして、7-Mode コントローラでデータを提供する準備ができていることを確認します。

手動による移行のロールバック

移行をロールバックする場合は、クラスタおよび 7-Mode システムでいくつかの手順を手動で実行する必要があります。手動のロールバック手順の一覧は 7-Mode Transition Tool で生成されます。

ロールバックの手順は、ロールバックを決断したフェーズによって異なります。インポート処理が成功したあとにロールバックを決断した場合は、このタスクのすべての手順を実行する必要があります。それよりも前のフェーズでロールバックを決断した場合は、これらの手順の一部を実行する必要があります。

手順

1. クラスタにログインします。
2. 移行したボリュームのいずれかが SnapMirror 関係にある場合は、次のいずれかを実行します。
 - 移行したボリュームが SnapMirror 関係のデスティネーションである場合は、SnapMirror 関係を削除します。
`+snapmirror delete -destination-path destination-path -source-path -source-path`
 - 移行したボリュームが SnapMirror 関係のソースである場合は、SnapMirror 関係を解除します。「*
`snapmirror release -destination-path destination-path -source-path source-path *`
3. クラスタから、移行したボリュームで次の処理が実行されていないことを確認します。

- a. ボリューム移動操作 :+* volume move show *
 - b. LUN の移動操作 : +* lun move show *
 - c. LUN コピー処理 :+* lun copy show *
4. すべての 7-Mode アグリゲートのロールバックを実行します。
- a. diagnostic 権限レベルにログインします :+set -privilege diagnostic
 - b. 「 storage transition revert start 」 コマンドを使用して、アグリゲートを 7-Mode の状態にリバートします。
- このコマンドには、移行プロジェクト ID やアグリゲートの属性など、追加のパラメータが必要です。7-Mode Transition Tool で生成された手順に従って、パラメータとその値を指定した完全なコマンドを使用してください。
- c. 移行したすべてのアグリゲートのロールバックが成功したことを確認します。 +*storage transition revert show-status *
- ロールバックが正常に完了すると、アグリゲートの [ステータスコード] フィールドに「 REVERT_コンプリート 」と表示されます。
5. ディスク所有権をターゲットクラスタノードから 7-Mode コントローラに再割り当てします。
- a. ディスク所有権を 7-Mode コントローラに割り当てます。 +* disk assign - disk_disk_id - s_system_id_-force true *
 - b. ディスク所有権が 7-Mode コントローラに割り当てられたことを確認します。
- 'storage disk show -fields owner-id**
6. 7-Mode の LIF を SVM から削除します。
- 「 * network interface delete -vserver svm_name 」 - 「 lif_lif_name*」
7. ターゲットクラスタノードに対するコピーフリーの移行の制限事項を diagnostic 権限レベルで削除します。
- 'storage transition pre-commit end -session-id_transition_project_id_**
- この手順は、ロールバック処理が完了して、7-Mode コントローラが稼働状態になったあとも実行できます。
8. 次に示す diagnostic 権限レベルのコマンドを使用して、ターゲットクラスタノードに関する移行プロジェクト情報を削除します。
- * storage transition purge-info -session-id_transition_project_id _ *
- この手順は、ロールバック処理が完了して、7-Mode コントローラが稼働状態になったあとも実行できます。
9. エクスポートおよび停止処理の際にディスク所有権の自動割り当てを無効にした場合は、有効にします。
- *storage disk assign -auto true ***

10. ツールによってターゲット SVM に移行された構成をすべて手動で削除します。

ツールで移行された構成の情報については、SVM のプロビジョニング処理とインポート処理の結果で確認できます。

11. ディスクシェルフをターゲットクラスタノードから切断し、7-Mode コントローラに再接続します。



ケーブル接続を検証するには、Config Advisor ツールを使用する必要があります。

12. ターゲットクラスタノードのディスクシェルフ ID との競合を解決するために 7-Mode のディスクシェルフ ID が変更された場合は、古い ID に手動で変更し、ディスクシェルフの電源を再投入して新しい ID を有効にします。
13. ソースの 7-Mode コントローラを通常モードでブートします。
14. いずれかのソース 7-Mode コントローラから、テイクオーバー機能を有効にします。

「* cf enable *」と入力します

15. エクスポートおよび停止処理の際にアグリゲート Snapshot コピーの自動削除を無効にした場合は、有効にします。

```
options snap autodelete aggr_name_on
```

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。